

## 1.4 医学専門学群

学生の確保 (人)	年次		定員	志願者	受験者	合格者	入学者	
	1年次		— ※ — (95)	— ※ — (515)	— ※ — (456)	— ※ — (96)	— ※ — (96)	
	編入学・再入学		5 ※ — (5)	92 ※ — (46)	82 ※ — (40)	5 ※ — (7)	5 ※ — (5)	
学生の進路 (人)	卒業者	就職者	就職者の内訳			研修医	進学者	その他
			企業	教員	公務員			
	98 ※ — (101)	— ※ — (—)	— ※ — (—)	— ※ — (—)	— ※ — (—)	— ※ — (—)	96 ※ — (95)	1 ※ — (2)

・ ( ) は前年度の数値を、※は外国人留学生を内数で示す。

### 1 医学専門学群の活動

#### [教育]

医学・看護学領域の新しい成人教育手法とカリキュラムプランニングに習熟するため、外部より5人の講師を招聘し、1泊2日のファカルティ・デベロップメントのためのワークショップを開催した。34人の医学類及び看護・医療科学類担当の教員が参加し、テュートリアル方式を中心としたカリキュラム作成等について学習した。

平成16年度より実施される医学類の新カリキュラムと看護・医療科学類の実習支援に対応するため、これまでの教育支援室（カリキュラム室・学群実習技官室）機能を強化し、カリキュラム企画や評価も行いうる医学教育企画評価室を設置した。これまでの医学専門学群における教育支援実績とその教育効果、さらに現在体系化されつつある新カリキュラムとその支援体制をまとめ、「先進的な医学教育を推進する支援システム」として、「特色ある大学教育支援プログラム」に応募し、採択された。

教育関連の施設については、(1)形態ミクロ実習室の全面改装、(2)学群棟4階のセミナー室（10室）の環境整備、(3)1階2部屋の多目的小教室化と環境整備、(4)テュートリアル教育や看護学実習のための看護・医療科学類実験演習室（プレハブ）棟設置等を積極的に行い、懸案事項の一部が改善された。

#### [学生生活]

平成15年度はクラス連絡会を医学類、看護・医療科学類で各1回開催し、学生側の意見、要望やカリキュラム改革等について意見の交換が行われた。

### 2 教員の教育業績評価の状況

教育業績評価のための資料は、当面自己申告とすること、また研究業績評価と同様のデータベースシステムを利用することとし、本年度は、当該システムの骨子を作製した。

平成14年度と同様に、学生全員に講義・実習についてアンケート調査を実施し、その結果をカリキュラム編成の参考にするとともに、各授業担当教官に知らせ、教育方法の改善に供した。

### 3 自己評価と課題

平成16年度実施予定の新カリキュラムでは、テュートリアル教育の拡大、参加型の臨床研修であるクリニカルクラークシップ、選択制の大幅な導入を骨子とする。その内、テュートリアル教育の本格的な導入のためには、多数の小部屋が必要であるが、その一部を確保した。また、新カリキュラムでは、これまでの1年次の基礎科目、専門基礎科目の大幅な見直しが行なわれたが、改革案に沿った2年次以降の具体的なカリキュラム作成作業が次年度の重要事項になる。

平成15年度新たに設けた医学教育企画評価室の機能は、採択された「特色ある大学教育支援プログラム」の骨格を成すものであり、学内措置により教育専従教員（講師）を中心に新カリキュラムの推進や医学教育に関わる研究分野における活躍が期待されている。

平成15年度医師国家試験の合格率は、96.1%（全国平均88.4%）であった。成績不良者に対する指導や医師としての不適格者についての早期進路指導などを一層徹底する必要がある。